

令和元年度 大学連携事業「ココロンキャンパス」

福岡市人権啓発センター&中村学園大学教育学部 公開講座

※手話通訳・要約筆記あります。

テーマ **命の授業 ～ドリー夢メーカーと今を生きる～**

日時 令和元年11月25日(月) 17:00~18:30
講師 **腰塚 勇人氏**
元・中学校体育教師 元・養護学校教師



プロフィール

大学卒業後、中学校の体育教師になり、学級担任、バスケット部顧問として「熱血指導」の日々を送る。2002年3月1日、スキーでの転倒で「首の骨」を折り、奇跡的に命は取り止めたものの、首から下がまったく動かなくなる。当時、医師からは「一生、寝たきりか、よくて車イス」の宣告を受け、あまりの絶望に「自殺未遂」をする。その後、妻、両親、主治医、看護師、生徒たち、職場の同僚などの応援と励ましを受け、「自分の命があらゆるものに助けられ、生かされていること」に気づき、「笑顔」と「感謝」と「周りの人々の幸せを願う」ことにより、奇跡的な回復力を発揮する。2010年、教職を辞し、現在は命の大切さを訴える活動をしている。

定員 **300名(当日先着順)** 会場 **中村学園大学** (福岡市城南区 別府5丁目7番1号)

※どなたでも参加できます。事前申込み不要。直接会場にお越しください。
ただし、定員に達した場合は、入場できません。

1号館10階大講義室

※大学内に駐車することはできません。
公共の交通機関でお越しください。

主催 **福岡市人権啓発センター** (法務省委託事業)

問合わせ先 **福岡市人権啓発センター「ココロンキャンパス担当」**

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5-1 あいれふ8階

TEL 092-717-1237 FAX 092-724-5162

Eメール jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp

ココロンセンター 福岡 検索



令和元年度 人権啓発ラジオ番組「こころのオルゴール」放送開始! 2019年12月2日(月)~2020年2月28日(金)

福岡市が贈るラジオ番組「こころのオルゴール」、今年度はCROSS FMとFM福岡で放送します。

★★ わたしたちがお届けします ★★

佐藤 義昭さん 奥津 ふみこさん 劇団ティンカーベルさん

放送予定

CROSS FM 2019年12月2日(月)~12月27日(金)
【放送日】 毎週 月曜~金曜 7:52~7:57

FM FUKUOKA 2020年1月6日(月)~1月31日(金)
【放送日】 毎週 月曜~金曜 22:55~23:00

CROSS FM 2020年2月3日(月)~2月28日(金)
【放送日】 毎週 月曜~金曜 21:15~21:20

オルゴールの音色に
想いをのせて……
心あたたまる5分間を
お贈りします。

※詳しい放送日に関しては、各局の番組表でご確認ください。

人権擁護委員が表彰されました

令和元年10月28日、法務省において、人権擁護委員として永年その職にあり、職務上の功績が顕著であると認められ、福岡市から執行 良子さんが法務大臣表彰を受表彰されました。

「ココロンセンターだより」No.78 発行：令和元年12月 福岡市人権啓発センター

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号健康づくりサポートセンター(あいれふ)8階
E-mail:jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp

TEL092(717)1237 FAX092(724)5162

ココロンセンター 福岡 検索



TEL092(717)1247(人権啓発相談室では人権問題に関する相談及び、研修会や学習内容に関する相談を受け付けています)

法務省委託事業

令和元年12月(冬季号) No.78 福岡市人権啓発センター

CONTENTS「主な内容」

- 人権尊重週間 1P
- ココロンセミナー・人権尊重作品ほか 2P
- 人権啓発地域推進組織の取組・人権啓発推進指導員のコーナー 3P
- ココロンキャンパス・こころのオルゴールほか 4P



第48回 福岡市人権尊重週間 「人権を尊重する市民の集い」ご案内

テーマ 人権が真に尊重され、差別のない住みよい福岡市の実現を目指す取組を一人ひとりが推進しよう

福岡市人権尊重行事推進委員会では、人権が真に尊重され、差別のない住みよい福岡市の実現に向けて、昭和47年度から福岡市人権尊重週間(12月4日~10日)に各種行事を実施しています。

本年度もその取組の一つとして「人権を尊重する市民の集い」を下記のとおり実施いたします。ぜひ、ご参加ください。

12/4(水) 中央区 【会場】中央市民センター

- ▶ 実践報告 平尾校区人権尊重推進協議会
つながる力で共に生きる
～重ねてきた7年間。そして、これから……
- ▶ 講演 対話こそ共生社会を開くカギ
～全盲弁護士、障害者差別解消法を語る～
おごだ まこと
弁護士 大胡田 誠



12/5(木) 城南区 【会場】城南市民センター

- ▶ 実践報告 西日本鉄道株式会社 人権推進課
西鉄の共生社会への取り組みについて
- ▶ 講演 ワタシは一体ナニジンなんだろう
数学者・大道芸人 ピーター・フランクフル



12/5(木) 早良区 【会場】早良市民センター

- ▶ 実践報告 特定非営利活動法人 アベル
サービス管理責任者 竹内 肇介
発達障がい者の就労・自立支援
～アベルの取り組み～
- ▶ 講演 言葉の責任 ネットの被害者・加害者にならないために
～命の大切さ、人生の大切さ、あきらめない心～
タレント スマイリー・キクチ



12/6(金) 南区 【会場】南市民センター

- ▶ 実践報告 株式会社西日本新聞社
人事部 人権啓発室
部落差別をはじめとする
人権問題に対する西日本新聞社の取り組み
- ▶ 講演 いのちをみつめて ～お芝居とおはなし～
俳優 ありま 有馬 理恵



12/7(土) 西区 【会場】西市民センター

- ▶ 実践報告 福岡市立今津特別支援学校 校長 森 孝一
災害から子どもたちの命を守ろう!
～新たな防災チャレンジ～
- ▶ 公演 えんげしきゆうだん
演劇集団フリーダム
ミュージカル「ハッピーバースデー」
～命かがやく瞬間～



12/9(月) 東区 【会場】東市民センター

- ▶ 実践報告 社会福祉法人 グリーンコープ
抱徳館福岡
生活困窮者自立支援の取り組み
- ▶ 講演 生きる力の人権
～虐待やDV防止に向けて～
作家/エンパワメント・センター主宰 もりた 森田 ゆり



12/10(火) 博多区 【会場】博多市民センター

- ▶ 実践報告 堅粕校区人権尊重推進協議会
あなたが大切 みんなが大切
笑顔あふれる住みよい堅粕校区にするために
- ▶ 講演 私たちはなぜ生まれてきたのか?
小説「あん」でハンセン病快復者の人生を描いた意味
すけがわ
作家・歌手 ドリアン助川



時間 (各会場共通)

- 13:00 開場
- 13:30 開会
【学校・地域・職場からの実践報告(約40分)】
【講師による講演等(約90分)】
- 16:00 閉会

※手話通訳および要約筆記を全会場で実施いたします。 ※公共交通機関をご利用いただきますようお願いいたします。

ココロン セミナー紹介

考えてみませんか？ あなたの人権 わたしの人権

今年度の第4回から第6回までの講座を開催します。この講座は、様々な人権課題について、経験豊富な方々を講師に迎え、人権問題を身近なものとしてとらえていただくために開催するものです。

この講座を機会に、あなたの身の回りにある様々な“人権”について、学んでみませんか。

- 日程、講師、テーマは下記のとおり。時間は毎回14時から16時となっています。
- 会場は福岡市人権啓発センター研修室。福岡市中央区舞鶴2丁目5-1 あいれふ8階
- 定員は各回70名。参加無料。

スケジュール

- 第4回 1/25 土** **【テーマ】みんなが自分の＜性＞で生きるために**
～学校におけるLGBT/SOGIと人権～
佐賀大学 教育学部 教授 **吉岡 剛彦 さん**
- 第5回 2/15 土** **【テーマ】外国人の人権**
～在住外国人の人権相談の現場から～
コムスタカ 外国人と共に生きる会 代表 **中島 眞一郎 さん**
- 第6回 3/7 土** **【テーマ】僕は目で音を聴く**
～意外と知らない聴覚障害者の世界～
デフ漫画家 **平本 龍之介 さん**

申込方法

福岡市情報プラザや各区役所などにある案内チラシ裏面のファクス申込書が葉書、または電子メールにてお申込みください。福岡市人権啓発センターでもお申込みできます。

お申込みの際は、受講回、開催日、氏名、住所、電話番号、ファクス番号をご記入ください。

先着順に受付。定員になり次第締切。定員を超えた場合のみご連絡します。

申込み・問合わせ先

福岡市人権啓発センター ココロンセミナー担当

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5-1

あいれふ(福岡市健康づくりサポートセンター)8階

TEL 092-717-1237 FAX 092-724-5162

Eメール jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp

令和元年度 人権尊重週間標語

違っていい 認める心が まず一歩

▲ 当仁小学校 5年 さえき いちか 佐伯 一華さん

◎人権尊重作品 各市民センターで作品展

今年の人権尊重作品は、作文、標語、ポスター、絵画、絵手紙の各部門合計で39,281点の応募がありました。

標語、ポスター、絵画、絵手紙の入選作品(全194点)は、12月4日から10日までの人権尊重週間の期間中、各市民センターでそれぞれ展示されます。

令和元年度 人権尊重週間ポスター



▲ 横手中学校2年 井筒 優維さん

12月10日～16日は、「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です。

平成18年に施行された「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律」において、毎年12月10日から16日までを「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」とされました。

北朝鮮当局による拉致は、現在も続いている重大な人権侵害問題です。一日も早くこの問題を解決するためには、一人ひとりが関心を持ち、認識を深め、世論を盛り上げていくことが大切です。

人権啓発地域推進組織の取組紹介

香椎浜校区人権尊重推進協議会は平成13年7月に発足し、あいさつ運動を核として、「思いやりの心を育むまちづくり」を推進してきました。講演会やあいさつ運動、香椎浜小学校児童の人権に関する三行詩を掲載した人権カレンダー配布などの啓発活動に加えて、広報誌「浜ちどり」を年3回発行することで、校区の皆様の心に響く取り組みを進めています。



国際親善交流会は、海外からの留学生が多い校区ならではの取組として、平成18年度からはじまりました。

「多文化共生のまちづくり」を目指して、種々の取組を進めてきましたが、平成30年度は、公民館事業「避難所へ行こうパート2」とコラボして開催しました。

「避難所へ行こう パート2」は、例年の国際親善交流会に避難所(室)紹介を組み込んだ取組です。

東京学芸大学の吉谷先生のお話を通して、「違い」に気づき、理解し合うためには「会話すること」である、ということ学びました。小学校や公民館に位置づけている「福祉避難室見学ツアー」では、だれでもわかるイラスト表示(ピクトグラム)を見上げたり、部屋の中を覗いたり、興味津々な様子でした。その後、国際親善交流会の名物「もぐもぐタイム」です。今回のテーマは、「大鍋三種(ハラル対応)試食会」、アジア、中国、日本の料理を味わいながら「食材や調理方法が違って、おいしいものはおいしい」と感じるひとときでした。

香椎浜校区では、長い間「多文化共生のまちづくり」に取り組んできましたので、町を歩く人々の中に「あ、外国人がきた」というような意識、見方はほとんどありません。そばにいて当たり前、そんな雰囲気のマチになってきました。

さらに、近年は、様々な食い違いは「考えを伝え合うことが不十分である」という認識から、私たちが、まず、「やさしい日本語を発信していこう」、という取り組みを進めています。この取り組みの中から「やさしい日本語は、『外国人にとっては、なくてはならないもの』、そして、それは『高齢者や子どもたちにとっても、あると便利なもの』」という「共生社会を支える根っことなる考え」を生み出す事ができました。

香椎浜校区人権尊重推進協議会



人尊協活動を支えてくださっている校区の皆さん

緊急時は福祉避難室となる地域団体室の表示



人権啓発推進指導員のコーナー

本棚に並ぶ人権

研修のための資料を調べると、いろいろな『?』を発見します。例えば、「相撲と女性」についてです。「日本書紀」に「雄略天皇が采女(女官)に相撲を取らせた」という記述があります。「義経後学(16世紀)」では、興行相撲に「比丘尼」(尼僧)が出演していたことがわかります。江戸期の井原西鶴の作品「色里三所世帯」では、「女相撲」が取り上げられています。明治になって「土俵上の女人禁制」という伝統(?)が出てきました。不思議ですね。そのあたりのいきさつは今後の調べとして興味のあるところですよ。

また、何気なく読んだ作品から学ぶこともあります。吉川英治「平の将門」では、父「良持」が遺言で土地・牛馬とともに奴婢も遺産として言い渡しています。当時「奴婢」は個人所有物で、人間として見られていなかったことがわかります。「司馬遼太郎」の「胡蝶の夢」には、幕末の長崎で、若き蘭学者たちが、蘭学を通して「ヒトは皆平等である」ことの意味を体感していきます。司馬は「身分制度で固く閉ざされていた江戸の身分社会に、キリでもみ込むように平等思想を浸透させていく」と表現しています。作品の中にちりばめられた珠玉の言葉に出会う楽しみ、いいものですよ。

(笠原)

子どもへの虐待について考える！

最近の新聞記事を読んでいると、とてもつらい気持ちになります。それは、児童への虐待記事が多いことです。2017年度の全国の児童相談所が対応した児童虐待の件数は、13万3778件で前年度より1万1203件増え、過去最多で、統計を取り始めた1990年度から27年連続で増加しています。そして、2016年度に心中以外の要因で虐待死した子どもの人数は49人で、およそ1週間に1人子どもが亡くなっています。心中以外の虐待で死亡した子どもの年齢は0歳児が32人と最も多く、うち月齢0カ月が16人。さらに、データ(0歳児月齢別の死亡事例)から見ると、生まれたその日に殺されているケースが一番多くなっています。しかも加害者の9割は、その子を産んだお母さんなのです。

子どもへの虐待は、身体的、精神的、社会的、経済的などの要因が複雑に絡み合っていると考えられています。

子どもに虐待をしないために大事なことは、暴力を受けたときにどんな気持ちになるか、その感情に気付くと、今自分に起こっていることが暴力なのか判断できます。そして、感情の責任者は自分自身だと意識し、自分で自分の気持ちを落ち着かせる方法をスキルとして身に付けることが大切なのではないでしょうか。

(久保)